

## 国立科学博物館の施設管理・運營業務の評価（案）の概要

### 1. 業務内容及び契約期間

国立科学博物館の施設管理・運營業務（関係業務統括業務、防災設備等保守管理業務、清掃業務、警備業務、総合案内・展示施設案内等業務）

契約期間：平成 22 年 4 月 1 日から平成 25 年 3 月 31 日までの 3 年間

### 2. 実施状況に関する評価

- 包括的に達成すべき質として設定された以下の項目についての要求水準はすべて達成されている。
  - ア 施設の保全  
本件施設の一時的閉館や開館不能の状態を招くような重大な業務上の瑕疵がないこと。（発生回数：0回）
  - イ 展示資料及び来館者の安全の確保  
業務上の瑕疵による展示資料の損壊、人身事故等の発生がないこと。（発生回数：0回）
- また、個別業務（防災設備等保守管理業務、清掃業務、総合案内・展示施設案内等業務）の質として設定された展示室の温度・湿度についての要求水準及び入館者に対する満足度等のアンケート調査の項目についての要求水準もすべて達成されている。
- 統括責任者の配置により、各業務担当者への情報伝達経路が一元化されたことで、各業務間の連携がより図られている。
- 受託事業者からの改善提案に基づき、開館時間外の館内照明の点灯時間やエスカレーターの稼働時間を短縮したことで、節電に繋がり経費の節減が図られている。（年間約 90 万円、削減率 1.4%）

### 3. 実施経費に関する評価

- 特殊要因を除いた実施経費は、従来の実施に要した経費 180,696 千円（平成 20 年度）に比べ、平成 22 年度で 10,804 千円（6.0%）、平成 23 年度で 10,979 千円（6.1%）の経費増となっているが、主たる要因は業務の包括化に伴って新たに統括責任者を配置したことや従業者単価の増によるものである。

※特殊要因 年度ごとの変動が大きい企画展示室での来館者誘導等の業務、東日本大震災の影響等

#### 4. 今後の事業について

本事業は、サービスの実施状況は良好であると評価できるものの、各業務を包括化したことによる実施経費の削減効果は見られず、入札状況から鑑みても十分な競争性があったとはいえない。

したがって、次期事業においては、下記事項に留意の上、引き続き民間競争入札により事業を実施することが適当である。

ア 業務の包括化に伴って導入した統括責任者の個別業務責任者との兼務を明示的に認めることや、現場責任者を業務ポストとは別に配置する必要性を再検討する等により、実施経費の削減に繋がるように検討すること。

イ より多くの者が入札に参加することが可能となる環境を整えていくために、さらなる情報開示や仕様等の精査、入札説明会の充実等を図ることで競争性を確保すること。

以上